

第29回技術部シンポジウムを開催

シンポジウム実行委員長 出野 貴仁
(生命科学系/植物園 技術専門職員)

第29回理学系研究科・理学部技術部シンポジウムが、2014年11月6日(木)、本研究科附属天文学教育研究センターで開催された。当シンポジウムは、技術部職員の活動状況および成果の発表を通じて、学内外の技術職員と相互に業務内容の理解を深めるとともに、意見交換のできる貴重な場である。今回は、本研究科のみならず、他部局の技術職員による口頭・ポスター発表の他、国立天文台技術職員による交流発表も行った。参加者は山内薫技術部長をはじめ、本研究科技術職員・教員・事務職員・学生(計23名)はもとより他学部(17名)、他大学・機関(8名)、一般参加者(1名)の合計49名を数え盛会であった。



天文学教育研究センターにて

シンポジウムは山内薫技術部長の挨拶に続いて、附属天文学教育研究センター長吉井譲教授による特別講演「技術職員と共に前進する天文学教育研究センターと最先端プロジェクト」が行われ、研究と技術の最先端の貴重な話に一同深く聞き入った。続いて国立天文台先端技術センター岡田則夫主任研究技師による交流発表「国立天文台技術系職員の紹介」、昼休憩をはさみ口頭発表4題、ポスター

発表10題(うち交流発表1題)が行われ、各発表で活発な質疑応答がなされた。

シンポジウム終了後は情報交換会が催され、山内薫技術部長、附属天文学教育研究センター木曾観測所長土居守教授、並びに他部局、他大学・機関の方々が参加され、有意義な意見交換の場となった。

最後に、シンポジウム開催にあたり、多くの関係者の方々にご協力いただいたことを、この場を借りて御礼申し上げる。

祝2014年度秋季学位記授与式・卒業式

2014年度の学位記授与式・卒業式が2014年9月26日(金)に伊藤国際学術



NGUYEN Vu Quang Thanh さん(左)と IRVINE Tristan James さん(右)

研究センター伊藤謝恩ホールで実施された。理学系研究科・理学部からは五神真研究科長・学部長と、理学系研究科総代として NGUYEN Vu Quang Thanh (グエン ウー クワン タイン) さん(化学専攻修士)・ IRVINE Tristan James (アーヴィン トリスタン ジェームズ) さん(物理学専攻博士)が

壇上に立った。

また、理学部1号館205会議室にて博士課程および修士課程の学位記授与式が行われた。

卒業・修了されたみなさんに心からお祝いを申し上げます。みなさんが今後、世界の学術研究の進展に一層貢献することを期待いたします。



東京大学理学部ホームカミングデー 2014 報告

■ 横山 広美 (科学コミュニケーション 准教授)

2014年10月18日(土)に理学部ホームカミングデーが開催され、小学生とその家族で小柴ホールがいっぱいになった。理学部のホームカミングデーが「ファミリーデー」となり、楽しい短い講演とゲー・チョキ・パーで答えるクイズ大会が開かれるようになって3年目になる。今年は物理学専攻の牧島一夫教授から、ロケットと宇宙についての講演があった。迫力あるロケット

打ち上げ映像に小学生たちは食い入るように画面を見ていた。続けて行われたクイズ大会では、生物学専攻の榎本和生教授による進化についての話題であり、大変に盛り上がった。頭がよいと思われる人の脳は必ずしも重いわけではなく、「しむ」が重要であるらしいということや、クジラとカバはゲノムがとても似ているなどの説明に、小学生たちも大変興味をもったようである。最後に池田

菊苗先生の15分間DVDを流した。理学部の研究が、基礎から応用、実社会まで広がりを持っているという内容であった



■ ホームカミングデー 2014 当日の様子

伝アインシュタイン・エレベーター

■ 広報誌編集委員会

理学部1号館第3期工事にともない、旧1号館に設置されていたアインシュタイン (Albert Einstein) が乗ったとされるエレベーターを、総合研究博物館が保存することとなった。現在は、JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」内の展示室「GREY CUBE」に常設展示されている。展示解説にあるエレベーターの伝承の中から、アインシュタインに関する興味深い話をご紹介します。

「アインシュタインは、1922 (大正 11) 年の 11 月 17 日から 12 月 29 日までの一ヶ月半、改造社の招聘により日本に滞在した。来日直前に「光子仮説」によりノーベル物理学賞受賞が決まったアインシュタインは、日本各地で熱狂的な歓迎を受け、数多くの講演を行った。東京帝国大学では 11 月 25 日から 12 月 1 日にかけて、計 6 回の特別講義が開催され、東大滞在中は物理学の田中館愛橘名誉教授 (1856-1952) の元研究室が控え室として使われていたという。物理学教室の中央講堂や田中館の研究室があった理科大学本館は、1923 (大正 12) 年 9 月の関東大震災により崩壊し、アインシュタインゆかりの場所はすべて消え失せてしまった。その後、岸田日出刀が設計した理学部旧 1 号館は、1924 (大正 13) 年

6 月に着工・1926 (大正 15) 年 3 月に竣工した建物であり、アインシュタインがこのエレベーターに乗ることはなかったはずである。この昇降機が「アインシュタイン・エレベーター」と伝えられてきた理由は定かでない。アインシュタインの一般相対性理論の基本となる等価原理は、エレベーターの思考実験から着想された。彼自身が「人生最高の思いつき」というこの大発見が、理学部最古の建築遺産の一つである旧 1 号館のエレベーターに結びつけられ、アインシュタイン来日の歴史的記憶を伝える象徴として伝説化されたものかもしれない。」(引用元: インターメディアテクの展示解説)

JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」(HP: www.intermediatheque.jp) 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号JPタワー / KITTE 2・3階



「伝アインシュタイン・エレベーター」展示の様子。この昇降機はエレベーター・カンパニー日本支社 (現・日本オーチス・エレベーター) によって製作された。

© Intermediatheque
空間・展示デザイン © UMUT works 2013-